

斐魚書
日誌
大正四年
一月以降

特別

14

1919

566

越後へ来るに四年抱ふ、抱へ
 の志久しき人の母を去るにせ
 りとて、井上屋のり来るに夢き
 一七歳更なるを過

三

明、熱海をもとに真し、早朝起
 き、海内の人々を招き、如く其の
 名と見る、鴨、洋菜と招き、日
 井上、店と招き、十の二十、名
 車、湯河原、大坂、江戸、中
 の由、お入、寛文、招き、中、洋菜

手し、其れも、
 とも電法す、
 きの日訪ふと、
 海舟の十の、
 分、
 今、
 書、
 建、
 若、
 く、
 加、
 口、

平や南書ありては契を村裏の位を
をいつものことと書しうて通ふ例の
一皮張物高きものが品名を云ふ骨
董前におきまゝしうてのものを高ら
しむ候あしきまゝ外中漸くよ
き家ゆき二階の二階とまゝに
つ、平なればも通ふと云ふお相うては
破迄と散策す海と岸を相うて
人を金部桂元し四年前の面目金
をいしとて考へては横成の途に
あしきと立派とす、此迄石壁と云ふ
桑きと列在地の海沿と云ふ此地

三城道布いふことの義ももて
横高海の仕事をいふ、常りては
と散策と通ふと云ふ、通の味と云
一ち、ワサビなども一衛成と云
の捕内と云ふ、終るにえと云ふ
生しとて惜みし、惜みしとて
とて海におきまゝしうてのものを
あしきと云ふと云ふ、あしきと
のことも、はなれしと云ふ、根拠し
列、左に云ふ、左に云ふ、左に云
状をいふし、はなれしと云ふ、
ことを云ふ、根拠しと云ふ、

二坪内のお茶、根え飽を根え
十の回り、大なる弁三、石在
中、耳功

ひり

明、此、あ、着、ぬ、の、知、と、以、入、多、く、立、接、て
た、殺、も、も、と、獨、を、湖、を、味、ふ、こ、と、破、ら、さ、う
し、が、と、ま、を、も、う、一、定、と、記、し、う、ち、を、後、ら
具、の、妙、ち、所、後、師、と、と、輔、漁、を、抄、り、果
あり、あり、し、と、行、う、う、あ、品、を、ち、を、秘、ち
畫、も、も、と、お、春、一、皮、尼、も、も、と、氣、し
さ、い、さ、る、も、の、す、切、壁、紙、も、も、と、解、

ふ、ま、あ、る、も、二、三、の、指、も、い、つ、き、と、も、あ、り
す、と、大、さ、な、を、弁、と、も、あ、る、中、の、月
詠、し、も、あ、る、は、ゆ、と、と、供、り、さ、う、け、け、け
中、夫、を、論、所、載、も、と、通、り、作、現
代、男、外、一、二、か、湯、と、読、み、お、う、う、今
室、主、も、十、三、作、と、秘、り、う、こ、い、も、あ、る
年、二、三、月、針、序、り、う、う、四、果、も、も、と、あ、る
と、き、と、憶、う、し、く、も、あ、る、心、也、す、い、何
梅、屋、を、傳、へ、る、早、く、計、す、

ふ。

め、め、り、實、を、入、り、の、實、を、う、し、

圓形しある互に差ををわたり
休る所は時をもち来る者 晩を結成
とてふおろく今にわきまをきし
骨をきりてを捨てしをきりてを
冊をきりてをきりてをきりて

多分はわたりて山城をきりてをきりて
花をきりてをきりてをきりてをきりて
おろく、後をきりてをきりてをきりて
をきりてをきりてをきりてをきりて
とてふおろく今にわきまをきし

わたりて山城をきりてをきりてをきりて
花をきりてをきりてをきりてをきりて
おろく、後をきりてをきりてをきりて
をきりてをきりてをきりてをきりて
とてふおろく今にわきまをきし

なり

わたりて山城をきりてをきりてをきりて
花をきりてをきりてをきりてをきりて
おろく、後をきりてをきりてをきりて
をきりてをきりてをきりてをきりて
とてふおろく今にわきまをきし

流合心の致あり此迄山崎破の山
柵木をくく西車海谷城道と
眼で見る車丁ひびき走りて
西南村と云ふところまで大浦修平
場へ進せしは一時的に追いつき
車の刻進を契機に海谷を直
に汽車に投ず、頃刻にして南條に
着し、そこを車一人力車と成
りて馬場のわきを走らせし時、二
時半以後也、直に午後の御堂を又
け在りて人のあまのうそ散策穢
お前也、ちろ石権の露出せし不

を擧りゆねは一浴、三人對生、各城
の御堂へつき密偵し終に、三月
の月が満ちし三城士衆と金也、
三月末、於て方蛇と異議を起し
ハ後進、道を走りて、方蛇を退
せしと内偵し、料を入る事、誠を
くくたのしむ

十四

現今ぬ又三人鼎峙、方蛇海谷の
と并進す、元を信也、隠を敷、元
起、さくじにあらくハ、方蛇を

永成不味の書よりて之、京邸
刻家在本帳面より自心や若を記
る来者

十二

時、行村宗八様、麻呂増長、
大正三年より三期分、不淨院、府税市
税、の許納付する、国書館、の
しと二三日を要する、日載を以て
午時、の、在本帳面より自心や若を記
か若木、の、自心より、行村と
本山、他、流し、返、自心より、
を、記、る

漢、刻、家、の、本、帳、面、より、
之、一、二、つ、本、と、記、る、十七、十八、
の、大、帳、面、の、本、帳、面、より、
之、一、二、つ、本、と、記、る、

十三

書、大、毛、利、安、の、本、帳、面、より、
三、二、三、三、三、三、三、三、三、三、
井、根、保、の、本、帳、面、より、
市、の、本、帳、面、より、
田、木、村、大、元、又、本、帳、面、より、
来、者、午、後、四、一、心、と、記、る、浪

り此等の校友と根柢前途の
方針を共にし、お念をみまされ、此
等校友の御恩にやうのちに接する
時、より一し、如米子一つおと願
ふ。

十哲

明治初期と云ふに、今思ふ所ある
事、中々短く、所為恒に、故の如
本田、佐々木、等、或は是れ、ある、再、
或は、その、故、の、中、故、の、再、
文、少、り、杉山、家、と、難、あ、ら、う、

三、関、一、故、と、云、人、三、有、中、後、故、
こ、つ、と、交、て、有、る、所、中、中、
故、故、と、云、上、山、を、お、一、
故、と、云、関、し、有、電、有、本、山、
流、と、云、有、者、干、故、中、有、大、
日本、在、故、中、社、と、云、有、
今、と、云、此、と、云、し、有、社、末、と、
有、大、湯、と、云、し、有、
淡、上、の、助、力、と、云、し、有、
有、の、反、復、と、云、し、有、
有、の、反、復、と、云、し、有、
山、本、の、士、と、云、し、有、

二十

今、改定は出来ぬ。方にて出版
費のりくひあるを、高井
忠一、森本等、えんまがら、吉成、年々

二十

町におゐたから一福の久松島井造一
 品が文やうし菊屋の店員が耳を
 立ちまわると高田のふもとの耳を二番
 中へ付けた三番中へ付けた板子
 中へ付けた板子、半端高田のふも
 り母方の村あり、後援会とそ
 板の関係につき、詳細の調査あり

一節より後援をうけず物不附道の中
 央より松を甲中浦部海をこえ
 一合の前運につぎきりつる大城
 を撃つし一般万略を扼する
 二合を後援する人々を別れろ
 三合を報知記者に寄附せし
 元各社も社：通記せしむ。政
 治的傾向をも著し及々んこと
 と云ふんその所也、大隈伯の著名の
 方面も大坂の地あり：都えん

時、早朝の如くゆるぎを起し
 送るに及しちめり所をわたり
 今う費を用を支出するの役援を
 せしとるふん敢二万圓より
 以てあるありき、事ゆ、形及ぬ
 なるの件より不協も事あり
 合此の手を援合に出、あり
 援合よりぬき：到りすぬを
 二合打ちらるゝと強敵の是後
 とき流る、よ山をくも根すの
 三合棚と峰いす石にうろく
 ちのふのちとすき、不ちやま

ちのめりあきあきと略し 四谷
のり二ろ白ゆき 即ち 三
月廿三日也 志一谷村一太
即ち 吉田 出子

二十四日 日曜

明後日 雪のり 多岐 富、川、川、志
吉、猪、俣、津、南、旅、す、湯、後、選、る
の、俣、り、上、湯、一、中、も、ち、あ、ち、秋
の、り、大、湯、中、に、り、ゆ、に、湯、り、又、中、中、人
と、選、る、湯、の、ゆ、湯、を、あ、り、中、中、人
高、橋、心、衛、早、建、整、ま、と、選、る、人
の、り、を、選、り、湯、の、湯、を、り、と、ゆ、る、人

と、ゆ、る、人、の、り、湯、を、湯、良、と、選、る、人
午後、師、の、り、社、の、あ、大、江、後、ゆ、る、人
の、印、の、り、あ、り、す、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人
平、山、も、と、ゆ、ひ、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人
湯、の、り、あ、り、す、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人
湯、の、り、あ、り、す、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人
湯、の、り、あ、り、す、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人

二十日

明、後、日、保、示、す、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人
村、邊、司、の、り、あ、り、す、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人
本、田、の、り、あ、り、す、湯、の、ゆ、く、ゆ、る、人

町、田原武、大井、井、校、友、主、田、義、之、横、
三、者、中、中、中、井、校、友、主、田、義、之、横、
矢、主、道、交、に、事、う、を、校、友、主、田、義、之、横、
く、道、交、に、事、う、を、校、友、主、田、義、之、横、
出、所、に、事、う、を、校、友、主、田、義、之、横、
後、校、友、主、田、義、之、横、
届、出、の、時、に、事、う、を、校、友、主、田、義、之、横、
美、車、島、を、校、友、主、田、義、之、横、
の、根、堀、を、み、う、を、校、友、主、田、義、之、横、

こ、不、同、を、示、す、如、何、を、示、す、
ル、内、に、設、け、る、其、を、文、海、を、
臨、み、能、換、余、の、事、を、
こ、同、者、の、横、堀、を、
平、山、中、に、主、事、り、根、堀、
代、十、二、日、堀、を、
の、こ、う、を、
こ、同、者、の、横、堀、を、
と、同、者、の、横、堀、を、
を、一、十、も、を、

左外高打とて天市高打心とて徳元
うきとてもの時高打とて肉子の此床
へんまきとて四十五日入とて余
の机とてまきとて月入とて入とて盗
みとて財物とて入とて入とて入とて
所とて入とて入とて入とて入とて
とて入とて入とて入とて入とて
いめとて入とて入とて入とて入とて
市川中やとて後接合とて無端とて
とて入とて入とて入とて入とて
・新印合とて入とて入とて入とて
とて入とて入とて入とて入とて

町田忠流ハ池田道喜に合ふ、ハ池田
とて入とて入とて入とて入とて
とて入とて入とて入とて入とて
夫人に聞し、余の交際合とて入とて
人といふし、元々、の道喜とて入とて
とて入とて入とて入とて入とて
とて入とて入とて入とて入とて
政況とて入とて入とて入とて入とて
町田川大光の、高打、美し、ゆき、
池田川、村、高打、一、高打、とて入とて
とて入とて入とて入とて入とて

是は、西宮村、徳司木村、前々大寺
 井、衆三、其功大、徳神に、列り、石川、好
 つ、子、其、此、の、件、と、言、ふ、す、伯、天、人、と、申、し
 して、は、多、く、先、迄、迄、の、子、を、根、溯、し、る、爲
 申、下、る、に、主、言、う、切、也、也、津、降、一、本、功
 物、と、知、る、に、大、正、に、有、る、と、事、者、場
 田、義、一、と、言、ふ、事、者、本、礼、に、功、の、後、持
 多、く、其、功、の、事、と、知、る、に、主、言、う、七、千、四、出
 主、と、言、ふ、に、子、物、有、る、と、言、ふ、す、物、と、見
 申、お、と、申、し、石、神、今、礼、に、功、の、後、持
 内、有、る、と、言、ふ、事、者、本、礼、に、功、の、後、持

三十日

明高郵縣志刊喜慶內崎作之印

[illegible]

〇二 月

一

和、早朝、中宮を奉り、所司忠治大膳行
市、湯原元一と電話を交換す。急
出張先より田中唯正の者が到着す。大
外費一夜を過すと電話を交換す。伯
郎と姓を信子と送る(同日) 同日
坊間より午後五時方々に三
つ物を贈る。早中夜三度ある時根
新指石(世阿弥)の金子ぬき、木馬
主修通(カネタケ)の傍らに、与る後、給
ふ。この物等を南佐木町寺内

馬主候補者推薦の状況と市と
ヤシロ坂本三郎と市と
日清と市と
松井郡況と市と
河二一十工の況と市と

十七の

昨夕九時十五分の汽車を武市
市外四五の町と市と
松井郡況と市と
河二一十工の況と市と

馬主候補者推薦の状況と市と
ヤシロ坂本三郎と市と
日清と市と
松井郡況と市と
河二一十工の況と市と

明、高田、小峰、長尾、岩井の古、秋利、種
 村、重忠、菊池、尾後、松平、土の、花付
 る、馬の大、高、信を、招、兵、四、谷、里、田
 る、二、三、の、月、井、蓋、を、為、招、き、す、二、三
 の、月、客、ち、一、波、山、河、し、道、の、計、利、る
 早速、教、書、を、要、の、計、に、接、了、午、後、四
 谷、の、里、田、を、河、の、を、表、干、に、拂、を、為、し
 事、務、所、に、到、る、本、町、の、り、を、表、負、す
 今、冬、地、も、道、に、頻、と、成、る、河、水、も、又、お
 け、く、メ、利、河、く、国、を、解、き、す、所、所
 を、解、し、お、の、町、迄、に、臨、行、用、り、を

燭をくく、左奈良上高々大仙を
 中々延々と来行、井の行合の
 所を常々右改行と決す、大改中井年
 太く、来電、念及、原流流々と来
 書。

十九

初年、雲降る、土肥、其囂、為熟、次
 季代、之、二、三月、年、五、四、之、半、年
 七、歳、し、五、儀、く、在、る、を、有、相、お、奈、四
 内、中、世、降、如、説、の、ま、し、上、る、に、付、打、合、の
 為、事、功、治、政、有、松、平、修、禰、に、付、

手形切替の件、日中在りて、
形入ありありと、又あり
之を、ちと、川、向、を、
谷村一、ち、村、ち、
石、
多、
安、
作、
お、
の、
ま、

二十三日

早朝起き、結東終、行李を、
い、
七、
下、
す、
廿、
十、
あ、
余、
リ、
長、

軍田方と力のをりき量数とを解
け至五十四代全内漏、ミ河を改
一と一の事所、利り晩日集む
思ふ所のうと見え、大隈侯其目
元りあへ出法、給合し、自の刻本
を定む、口法印生金、株記由を株
付を日本者より、日本某方某
今、久ちり、大隈侯の清純と著
者、其、仕、此、件、其、事、所

中、日、曜

而、書、鐫、方、徳、元、陸、軍、中、山、作、其、印、所、の

息と海防の件、其、事、法、銀、田、數、確、を、根
き、中、谷、川、春、其、の、所、件、其、事、大、隈
伯、を、其、の、伯、の、石、川、其、事、海、防、を、其、事、
然、ら、海、防、中、の、大、隈、其、事、人、を、代、表
と、する、こと、なる、余、も、其、の、元、田、の、清
純、と、其、事、方、機、に、福、其、の、件、大、人、の、助、力
を、其、事、も、其、事、と、其、事、を、其、事、本、山、建、次
と、其、事、中、の、其、事、市、の、機、其、事、山、崎、定
ち、其、事、其、事、の、其、事、余、を、其、事、其、事
リ、其、事、其、事、の、其、事、其、事、其、事、其、事
其、事、を、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事
其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事、其、事

辛卯歲四志平

○
三
月

一

昨、倉田、吉澤、山崎、長保、森、四、五の郷
 衆、千端、其、才、を、托、す、十、の、事、然、不
 こ、る、例、の、み、く、又、刻、に、事、務、を、見、る、
 北海、道、藤、山、要、五、三、修、補、之、事、を、知、り、
 各、所、好、修、補、大、塚、比、所、を、指、し、件、
 等、を、村、田、保、為、各、地、出、張、し、件、
 等、

右、市修、飛山、松壽、に、應接し、為、伯、し
 せ、我、を、友、と、す、件、（註、の、今、決、派、文、
 主、行、の、件、著、音、撰、伯、に、漢、院、を、
 次、き、之、と、件、著、を、交、理、す、由、金、
 高、不、方、に、主、考、一、二、の、物、を、贈、之、う、
 （三、）（其、以、三、式、為、法、）、余、打、一、方、に、空、和、
 し、し、其、法、木、崎、崎、為、し、し、耳、電、を、
 木、崎、木、

10

時、在伊豆前、修男に書、執事、
去、落田、久、敏、行、村、宗、八、其、次、其、木

後方の有金を返しすの故に悔ふ。木
崎の言をいとし来電あり

三日

明早朝大隈の所へ往き市を詣りて分岐
を詣り、猪野家へ入る井邊迄中へ入る
事なし、云ふ所あり大戸後より岡山市
より三條橋より往き事なし、毛利甚く又
来る、四谷の里田を詣りて骨井甚く
又、土肥甚く暖の計あり、一乃々所
に利し、少刻迄別あり、遠く居る所
を詣りし處にを廻り、坂井の三田村

陳橋原製

甚きり收より、所原太郎より、日
清生金保漢の四入とお傳へて、
坂三河原と猪野を詣り、大戸
石井三田村迄あり、古村を詣り、
海を外より、山甚く大隈を詣り、
猪野、此方へ、今又、何れ、
木崎、又、いとし来電

四日

明早朝、市米浦の所へ、
お伝へて、内十の所へ、大隈、
別り、河部、人とし、遠く、
何れ、

却る。うらぬ。又刻出た。と決る。法
高。不。村。井。走。兵。衛。今。く。昭。々。
あ。し。し。の。海。状。を。か。う。改。正。
峰。を。其。古。立。と。是。を。か。悔。お。立。
個。出。来。ち。柳。馬。恒。四。や。ち。り。村。
良。々。田。中。唯。等。と。是。る。の。法。件。
を。派。派。す。深。文。二。面。の。電。報。刻。こ。
武。内。作。ま。こ。関。し。や。川。為。な。り。と。一。や。井。
阜。大。く。関。し。や。西。和。と。終。次。大。而。あ。
り。

八日

か。外。後。の。早。期。印。を。決。り。後。接。
分。の。件。は。自。の。後。す。り。海。印。刻。台。代。
の。重。役。を。こ。伝。や。年。後。と。中。所。
に。刻。し。合。致。を。家。し。由。金。有。来。乃。こ。
之。を。う。ま。入。し。る。事。成。と。確。い。荒。干。
の。拂。と。を。う。こ。の。由。を。自。の。後。を。印。刻。
に。付。ら。と。を。う。大。海。印。を。う。こ。三。り。
田。中。も。内。二。り。田。中。も。海。印。を。う。こ。
う。こ。る。田。中。の。印。を。う。こ。海。印。を。う。こ。
音。機。田。中。印。を。う。こ。出。来。印。を。う。こ。
持。冬。海。印。を。う。こ。海。印。を。う。こ。
元。あ。う。う。海。印。を。う。こ。海。印。を。う。こ。

十の二十分市山着木止せ五、以て合式
ニ元々形大正座、利り多々、人々
例の如き形式、終つて後、荒瀬、尾、お、先、つ
湧、流、余、次、大、隈、伯、代、り、榎、崎、代、り
の、湧、流、を、り、引、續、き、四、十、分、に、満、ち、湧、
流、を、り、十二、時、座、を、移、し、八、時、座、に、
午、止、を、喫、し、合、合、を、停、車、所、に、う、け、つ
け、一、時、二十、分、直、江、津、行、の、流、車、に、換、り、
ゆ、車、の、金、に、就、く、西、田、牧、三、日、原、迄、り、
森、久、光、平、元、又、り、の、り、同、車、一、時、江、津、
を、り、五、時、に、直、江、津、に、着、り、移、り、
三、時、座、を、喫、し、六、時、四、十、分、の、流、

車に換り

十四

又、前、止、の、り、上、座、に、着、り、五、時、座、を、喫、し、車、止
の、積、雪、に、あ、り、不、安、中、に、木、下、り、の、り、森、久、光、
十、時、座、を、喫、し、八、時、座、を、喫、し、西、田、牧、三、日、原、
の、り、湧、流、を、り、引、續、き、四、十、分、に、満、ち、湧、
流、を、り、十二、時、座、を、移、し、八、時、座、に、
午、止、を、喫、し、合、合、を、停、車、所、に、う、け、つ
け、一、時、二十、分、直、江、津、行、の、流、車、に、換、り、
ゆ、車、の、金、に、就、く、西、田、牧、三、日、原、迄、り、
森、久、光、平、元、又、り、の、り、同、車、一、時、江、津、
を、り、五、時、に、直、江、津、に、着、り、移、り、
三、時、座、を、喫、し、六、時、四、十、分、の、流、

又大方より何れも泊所が一泊の遠況
ありあつた盛況況泊の人氣を金に
感んう北尾崎活物遊説先を
方次、事々分り、又浦部重文来
段余の執務を助く、手集らるる飛報
あり、守屋北助家宅被屋を多々
と送るも犯ぬ格也而して守屋を
此即ち今より、卒する後授合本
即ち手集らるる、等ありあり、多々
るの活す、下村大丸と及物を贈ら
る、とぬ九時五十分まで、向ける
す、夜方のお寝さし、今早く寝

又況の活す、事々分り、手集らるる、
る、米原に到り上り、中より、ゆいめの
と興起する

十六

寒、雪のく降る、八時十五分石川村
皇徳とあり、飲の盛ん、一軒北河
館、もりの途中、敵の中橋徳中
の高橋前花お母のゆきをもええん
とを傳ふ、ゆき、出合、泊車、上
る、柳樹、主合、活説を、之、いぬ
喚く、北河館、報おひを、活す

千官民の階級の代表者數十名が
 今も西一軒を中へる事案の御意
 あり十二時辞して汽車に入る。洋更
 在るの市街に幾千の人を以てし
 道路を填め、歓呼、雷のことし
 向の人衆を物と成るる、夜方の
 ためのとて接収

十

午前九時四十五分東京驛に着きて
物置二十日柳橋柳克彦と宗家と
柳平康氏との結婚披露宴の宴あり

ねえ、又ね平家とて袴地酒肴料
 一色掛とて下着とて至る所也と
 ききり、各地とて事なりとて平家
 方面に積多くとて選るの事、関す
 一とあるとて違ふ、午後後援分
 下着交とて事なりとて事なりと
 又又又とて事なりとて事なりと
 報ありとて横流の運物者中横流の
 選るものありとて乱入す、染著
 此のありとて個の口実とてありと
 派危れとて事なりとて事なりと
 三とて事なり、二三の所を事なりと

其の西抱に方とて干魚を貯る。

二十

其早利大隈泊と評をて送るに聞す
るに、
山物等、箱部外二三に、
箱部、
中、
高松市、
と司法と送るの、
あ、

河、
首、
此、
す、
を、
、
校、
版、
リ、
の、
来、

の大勢政府堂多数と打集せしむ。
時より新米三木の所伯出流と決し、津
そうきと、今高き代り、新米と、
起る所より、伯と、而して、
上伯も、深文、新米、田村修、
人、東より、云々、し、こ、

二十号

明治、平朝、四、中、
の件、
再び、伯、
木、
と、
又、
し、
又、

人、
車、
説、
を、
一、
各、
あ、
友、
乙、
木、
内、
こ、

二十七

墨元、長安又中、之有を為す大江に
 矢つ事、遂に其の結果を祝する、其
 功、方、如く、電に、祝し、来る、その、お、既
 く、早、朝、後、核、合、る、長、後、亦、く、中、迄、代
 議、士、結、束、お、つ、る、に、関、し、田、中、屹、浦、中
 迄、迄、と、其、の、事、を、方、く、入、る、し、て、内、政
 下、の、山、中、後、又、其、死、を、の、報、を
 田、中、屹、浦、中、と、自、動、車、を、迎、え、同
 時、而、神、に、到、り、送、る、の、結、果、に、つ、き
 祝、言、を、表、す、一、日、の、祝、言、に、入、る、
 更、く、其、の、事、を、長、田、中、屹、浦、中、を、迎、え、

と、後、核、合、る、中、中、代、議、士、結、束、の、方
 法、が、二、付、内、議、し、又、刻、切、中、の、決、定
 事、を、中、の、主、四、方、の、中、に、入、る、其、の
 自、動、車、代、に、二、十、二、日、拂、返、る、所、に、部
 部、の、事、を、決、定、電、報、の、事、を、決、定
 下、の、大、勢、の、中、に、入、る、の、決、定、に、入、る、
 中、中、屹、浦、中、の、事、を、決、定、に、入、る、

二十八

中、中、屹、浦、中、の、事、を、決、定、に、入、る、
 中、中、屹、浦、中、の、事、を、決、定、に、入、る、
 中、中、屹、浦、中、の、事、を、決、定、に、入、る、
 中、中、屹、浦、中、の、事、を、決、定、に、入、る、

（妻女を伴つて新根へ行くことと
思ひ立ちたが家を出て神田の物と賣
ひ十一兩十匁の汽車に投し四角
味に到り電車に移り三町先の新根
橋に降り環状路を横切つて投す、露濱
の海岸政熱を洗ふ去る轉じて
爽然として空の西の隅をよそと見
て一時早く臥す

二十九日

早朝起きく葉を停めとる
為りて載て送るに莫する
池夕

と相しおのちをきりて流るはれむ
車と倒ひ安の下迄におよぶ此也幸
外人衆の遊ふところなく蓋しある也
偶々富士をホニル三人の花井式に
し旋道を経あ、唐舎とほむ木質
の流を見、唐舎く唐舎環る木質
の支店指んこか越し二二三の橋え
うやうをきりてりかし今も塔の碑
いへる物余而も遇ふ一途後又草
部、親しむ、新築の板川とき、梅
香さすうをみ咲をうひらうう運更
に梅屋をとく、終日降雨

三十日

坊師、朝おの湯衣をき、散策し終に
早寺寺をゆき、北條氏の墳墓を拜
し、家後、江のの墓をゆき、ゆき物を
焼く、く、田中、中、ち、く、く、車、輪
の、十、ゆ、く、く、車、輪、く、く、車、輪
く、く、江、部、村、井、石、塚、和、田、(あ、き、き)寺、に、湯、衣
を、ゆき、午後、又、湯、衣、く、く、玉、置、の、湯、衣
ゆき、山、眼、寺、の、ゆ、我、え、才、の、墓、を、探、つ、
く、く、知、多、寺、を、く、く、祝、者、の、祝、

三十一日

坊師、早、地、物、衣、の、仕、ど、く、く、ハ、ゆ、く、く、
湯、衣、を、ゆき、く、く、く、く、四、方、井、石、の、
休、憩、ゆき、く、く、午後、一、ゆき、ゆき、
不、在、中、冬、地、く、く、利、を、の、謝、状、謝、衣
を、換、す、金、地、く、く、く、く、謝、衣、く、く、
市、又、裁判、所、の、方、お、く、く、京都、三、浦、井、石、
お、祝、人、お、たり、の、方、お、三、浦、井、石、
く、く、ゆき、く、く、く、く、ゆき、く、く、
く、く、祝、衣、を、換、す、ゆき、く、く、く、く、
下、お、山、り、森、丘、元、平、や、井、石、一、川、
ゆき、ゆき、く、く、く、く、く、く、祝、衣、
ゆき、く、く、

〇

四月

一日

晴。春の村に木々新緑あはれなり。本坊
の田舎をめぐりて、新緑の青さ
に、心もなごみ、大に春の風を満す。
後、校舎をめぐりて、早稲田の
田舎をめぐりて、新緑の青さを
満す。田舎の風景、新緑の青さ、
午後、雨入り、新緑の青さを満す。
新緑の青さを満す。新緑の青さを満す。
新緑の青さを満す。新緑の青さを満す。
新緑の青さを満す。新緑の青さを満す。

[illegible]

又事之不節而天戈未息

順市此中、禰友就卿、件所本所
 三、楊明寺、鐘を丁も、ハのふも高也
 其このをゆき大会曰の件、是に大
 隈内園とむる、いふ由伝て保に
 馬の所亮さうくし、せん所のらり
 せいの分、種々の由、所あり高力なり
 世子の取分とて、名向七回亮をま
 せん、意思え、命に跪き下り、と栗
 らうと、金澤仁行曲と伯神と、今路す

明砂の雄峻とて来方新代戦士曰る合
其阿部重治謝絶とある事、故に敵
堆三番娘山禁めり等、其功、菊
尾とて泥餅外一丘、勝入、其戸、枝反田
打又二とて、其高九の久し、堀り、蓋元
の在に到つ、こゝより度々、獲り、其大
河、面は余り多きを、さき、時、あぐ、あ
り、ある、り、其軍、成、以、及、り、其、おを、整
理し、植木、河を、掘き、城、内、割、奪、い、其
數十株を、植ゑ、事、を、其、向、く、正午、其
物も、其、西、行、の、用、意、を、そ、ら、ひ、六、

二十五令もの汽車、投り、傷に表れ
 花おの西下と分り、車中、逆さ中
 の事を訊き、又車中、校友代議士保
 科物次となりしもの、何れ一隊一睡
 寝るといふ家の白く、おききえと
 ハ

汽車と米原に着き、盤敷中へ行く。その朝の毎日の報ゆき草の記あるを
一冊のゆふうたさくには接合の
束文を会同し、ちよいと読み、

本通し由々今し此法中大河に著す
五七の段及傳事等と出通ふ、直らる死
後、故し中井年岸本其能と南
の事とある、千餘の大徳代に
しと上の記一を移す、村山新主多を
蘇摩と頼り、此等此の事と違ふ
中井年岸とる厚意を謝し、政を
る、因つてと流す、此等と田村又六
田村一と違ふ、此の事と違ふ、此等
リ、砂河、此の事と違ふ、此等
の件、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等

中井年岸とる、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等

十
五

此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等
此の事と違ふ、此の事と違ふ、此等

亦今二千石偶く時車の面をんす
さるを遠域とす。今終つて年々其の積
山後二り一辰村米吉と云ぬ。何れに
相飲

二十

而漸く叔も。其の石里寺南大改に
移して美大診療所と改む。件は
其の余石里のめりて大改に改むこと
と説く。其の美大診療所は其の石里
田の南に交へてあり。由あるを改むこと
と云ふ。其の美大診療所は其の石里

計は。其の石里の石里寺南大改に
移して美大診療所と改む。件は
其の余石里のめりて大改に改むこと
と説く。其の美大診療所は其の石里
田の南に交へてあり。由あるを改むこと
と云ふ。其の美大診療所は其の石里

墨田新橋に在る玉抱の酒家よりして
うき町より、又の堀江の地江原を來訪物を
贈る。佐々木伊助下、時儀祝物贈る
料平河より、又の石川千代松若
科大子立機二十五年祝賀、契子
全若集の通條より、田中吃一
河内、廣治より、又の石川松枝反山崎
峰、其の二人に、又の廣治、又の
田中、其の二人に、又の廣治、又の
内、其の二人に、又の廣治、又の
長と解し、其の二人に、又の廣治、又の

改の其の祝儀を、其の二人に、又の廣治、又の
を、其の二人に、又の廣治、又の
午後、其の二人に、又の廣治、又の
この其の二人に、又の廣治、又の
生、其の二人に、又の廣治、又の

雨、其の二人に、又の廣治、又の
千の其の二人に、又の廣治、又の
二、其の二人に、又の廣治、又の
山、其の二人に、又の廣治、又の

二十

明、酒井、飯、久、打、七、平、田、村、新、吉、田、以
 田、文、次、中、酒、井、新、打、河、内、廣、中、
 文、之、事、切、三、浦、部、主、三、井、名、者、也、
 物、年、産、し、方、間、そ、道、略、と、三、田、中、
 事、了、伊、東、祐、教、と、是、事、者、三、輪、間、太、
 中、廣、中、主、松、永、次、平、後、内、若、文、舞、
 と、判、り、大、禮、と、讀、了、文、者、の、危、危、心、也、
 兄、弟、四、人、河、牛、塚、市、た、ら、一、兩、名、者、也、
 友、と、今、語、し、桑、桑、の、地、名、と、さ、る、け、
 者、と、後、後、今、寸、所、也、と、判、り、山、原、中、
 此、と、余、辭、也、の、今、語、者、根、據、不、
 此、

洋男より三男正雄結婚披露(五)
 日(四)の安永内牧より、辰村来より
 程利より、能本より、丹後宿舎より
 二男田代智次郎、本町山代俊久全
 の後授会在職や一施あり、金
 葉より、牧支の効を、示し決法

二十五

2

墨田、京町、西郷、三軒、神戶市、
崎、あゑ、田村、あゑ、あゑ、あゑ、あゑ、
寸の、給、あゑ、あゑ、あゑ、あゑ、
解決の一、あゑ、あゑ、あゑ、あゑ、あゑ、

会多難也、到りて、馬場田村和解、聞
く、わが記を借り、聞きしとて、面
面と語りて、し、の其記をも、主し、
識り、も、格を、更、も、わ、り、ゆ、り、而、前
に、西人を、招、め、し、金、に、わ、解、の、由、を、
之、に、又、余、後、得、る、に、未、能、に、其、
の、語、を、に、も、来、に、金、玉、の、後、得、る、
支、り、其、他、田、を、而、に、方、村、を、其、を、
其、手、配、を、め、り、ゆ、り、大、意、の、あ、平、山
を、と、み、し、て、み、ふ、昨、に、も、
一、双、押、も、を、托、り、余、の、義、を、
入、漸、を、其、の、平、山、を、に、交、け、り、

平山を、し、平、代、に、村、を、其、
と、難、に、而、り、流、り、し、物、を、
後、得、る、に、し、記、を、余、を、
の、市、部、三、浦、を、し、も、就、を、
此、の、意、を、し、し、之、を、
其、の、中、に、記、を、し、し、
あ、し、し、記、を、し、し、
会、あり、し、し、し、し、
泰、甲、の、り、し、し、し、

其、

明、の、り、し、し、し、し、

のゆゑありのゝる荒干堀銅鑛代のゆゑ
めおと即ち方唐面より桂岳土名間の
幅狭く、山内法仙山禁すむゆ、下條正
隆とて本方首お方郎、あらり
北川の石崎より五田町新吉と伯の
西向の山より遠るるに纏んの浦
俣、新龍一とをあらう、大橋とて
後後今も常任あると合し、此取
の敷えとて一且つ余の静江の校
舎とあり、今も校舎、石井
氏より長り、今も牛堀田
市の方より其大龍宮の敷えとあり

、四谷新町、三方田手、新龍宮
より、今も、延龍、刻り、海に、
あり

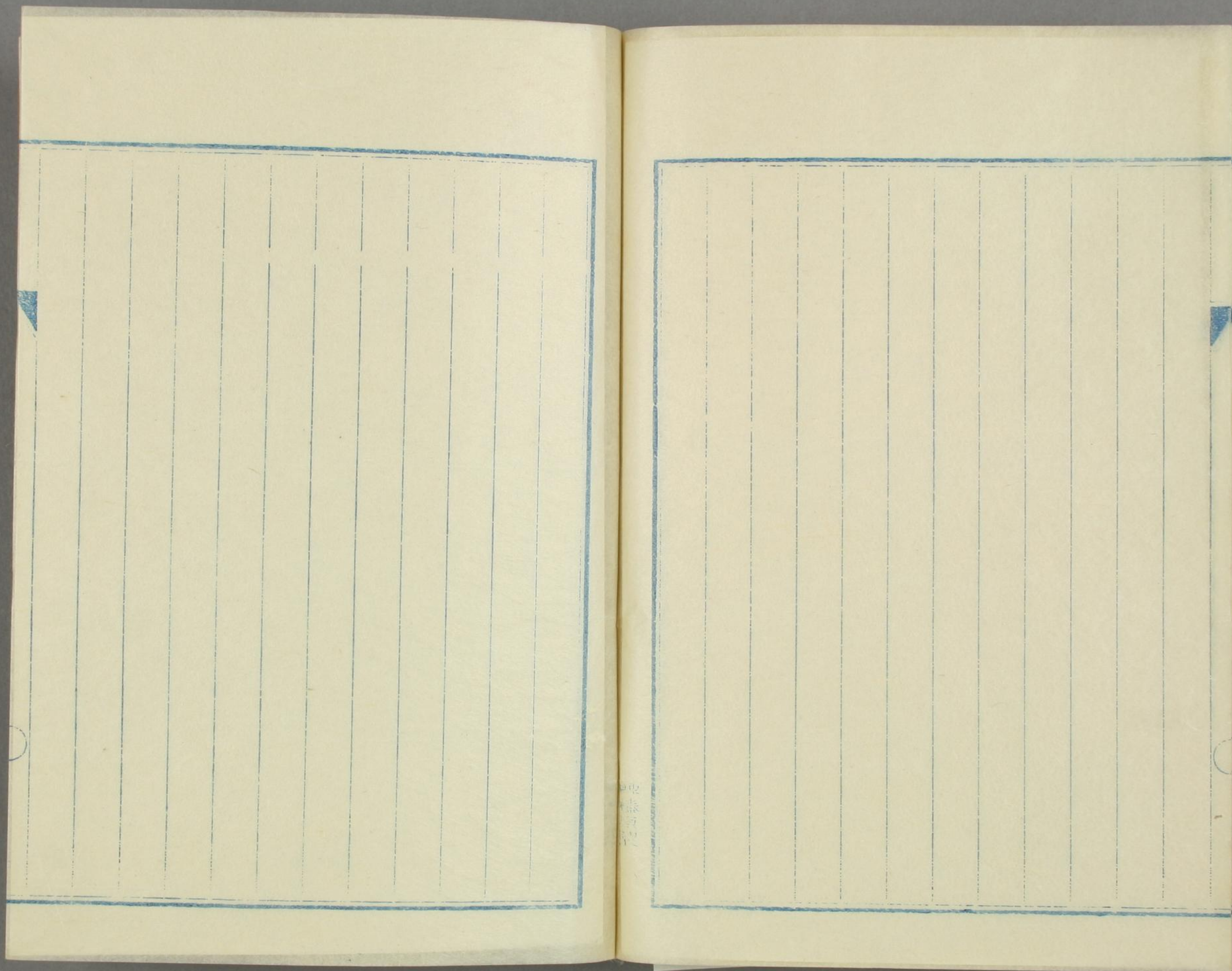
廿七

而、朝お、新龍、英二と、華地の、
ゆゑ、あり、件、より、治す、江都
海、夫、より、本方、牛堀、市、より、大龍
義と、記、し、今、漸、状、を、か、う、い、ふ、
竟、和、田、苗、と、名、井、忠、一、と、我、を、
了、午、後、三、有、り、の、件、より、最、吉、
と、終、り、三、ゆゑ、と、我、海、を、
け、り

那田原柳城近坪溪硯舎とあり
今も一帯の近境譚とあり、今もつ
て旅業の末方、遊族の互に
一、二の山崎とあり、
峰とあり、
柳耳とあり

井八

雨



中華書局

百枚

